

事業評価シート

番号 0760010 - 001

【1.基本情報】

事業名	ぎふ信長まつり				
担当部名	経済部	担当課名	経済政策課		
未来地図政策	中心市街地の活性化		政策コード	4 - 1 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	その他負担金	実施主体	ぎふ信長まつり実行委員会
実施期間	昭和32年度～	年度	根拠法令 関連計画※	3期中心市街地活性化基本計画	

【2.事業概要】

事業の目的	中心市街地である柳ヶ瀬・神田町一帯の商店街ににぎわいを呼び戻すには人が集うためのイベント(まつり)は必要不可欠である。また、「織田信長公」ゆかりの地である岐阜市のPRにもつながる。				
事業の内容	にぎわいを生み出すイベント(まつり)				
事業の対象	何を	各種イベント(まつり)の実施			
	誰に (対象者・対象者数)	市民			
	どのくらい (具体的数値で)	10月の第一土曜日と翌日曜日の2日間			
令和2年度 (実施内容)	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	3,804	120	4,080	120	650	20
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	3,804	120	4,080	120	650	20

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		10,697	10,900	0
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	負担金	10,697	10,900	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		10,697	10,900	0

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	14,501	14,980	650

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	14,501	14,980	650

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民	市民	市民
受益者数	280,000	340,000	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	52	44	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催日数	単位	日
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	2
実績値	2	2	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	観客数	単位	万人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	35	35	35
実績値	28	34	0
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	中心市街地である柳ヶ瀬、神田町一帯の商店街で大型店舗の撤退等、空き店舗の増加のため通行量が減少し、空洞化現象が起こっている。賑わいを呼び戻すため、集客力のあるイベントの開催が重要である。 地域のまつりであり、行政・民間(商工会議所、商店街など)・市民(協賛事業実施主体)との協働のもと、行われている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	中心市街地各所で、様々な主催事業や協賛事業が開催され、多くの人出が見込まれる。イベントや交通警備等に要するコストは増えつつあるが、一定の効果は得られている。 行政・民間・市民との協働のもと行われており、他の民間組織等が現状の市の役割を担うことは困難と考えられる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	2日間で約35万人の人出が見込まれる一大イベントであり、中心市街地に賑わいがもたらされ、消費の拡大にも寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	まつりの実施によるにぎわい創出であり、実施主体の負担により行うことが妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	様々なイベントがある中で、秋の信長まつりと、春の道三まつりが、人出をはじめとした規模で群を抜いている。また、開始から既に60回以上を数え、市民にも定着している。しかし、withコロナ、ポストコロナの時代に適合した持続可能な信長まつりのあり方について、検討の余地がある。

事業評価シート

番号 0760010 - 002

【1.基本情報】

事業名	岐阜まつり協賛「道三まつり」				
担当部名	経済部	担当課名	経済政策課		
未来地図政策	中心市街地の活性化		政策コード	4 - 1 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	その他負担金	実施主体	道三まつり実行委員会
実施期間	昭和48 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	3期中心市街地活性化基本計画	

【2.事業概要】

事業の目的	中心市街地である柳ヶ瀬・神田町一帯の商店街ににぎわいを呼び戻すには人が集うためのイベント(まつり)は必要不可欠である。また、「織田信長公」ゆかりの地である岐阜市のPRにもつながる。				
事業の内容	にぎわいを生み出すイベント(まつり)				
事業の対象	何を	各種イベント(まつり)の実施			
	誰に (対象者・対象者数)	市民			
	どのくらい (具体的数値で)	4月の第一土曜日と翌日曜日の2日間			
令和2年度 (実施内容)	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	3,804	120	4,080	120	650	20
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	3,804	120	4,080	120	650	20

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		3,000	3,000	0
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	負担金	3,000	3,000	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		3,000	3,000	0

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	6,804	7,080	650

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	6,804	7,080	650

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民	市民	市民
受益者数	290,000	380,000	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	23	19	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催日数	単位	日
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	2
実績値	2	2	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	観客数	単位	万人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	35	35	35
実績値	29	38	0
達成状況	×(未達成)	○(達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	中心市街地である柳ヶ瀬、神田町一帯の商店街で大型店舗の撤退等、空き店舗の増加のため通行量が減少し、空洞化現象が起こっている。賑わいを呼び戻すため、集客力のあるイベントの開催が重要である。 地域のまつりであり、行政・民間(商工会議所、商店街など)・市民(協賛事業実施主体)との協働のもと、行われているが、メインのみこしパレードは、運営ノウハウのある団体が存在する。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	中心市街地各所で、様々な主催事業や協賛事業が開催され、多くの人出が見込まれる。イベントや交通警備等に要するコストは増えつつあるが、一定の効果は得られている。 行政・民間・市民との協働のもと行われており、他の民間組織等が現状の市の役割を担うことは困難と考えられる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	2日間で約35万人の人出が見込まれる一大イベントであり、中心市街地に賑わいがもたらされ、消費の拡大にも寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	まつりの実施によるにぎわい創出であり、実施主体の負担により行うことが妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	様々なイベントがある中で、春の道三まつりと、秋の信長まつりが、人出をはじめとした規模で群を抜いている。また、開始から既に40回以上を数え、市民にも定着している。しかし、協賛の岐阜まつりも集客力が高いことや、メインイベントである「みこしパレード」について、運営ノウハウがある民間団体が存在することなどを踏まえ、今後の道三まつりの運営について検討の余地がある。